

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370800700		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホームあやすぎの里		
所在地	熊本県山鹿市鹿北町岩野5497-1		
自己評価作成日	平成24年3月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4370800700&SCD=320&PCD=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成24年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多くの自然に囲まれた閑静な地区にあり、日常生活の中で、ふんだんに四季を感じることができる。地区の催しや、地域サロンなどの関係者との関係づくりに努め、参加の機会づくりに努めている。また、併設施設や法人内の保育所、近隣小学校、子育て支援センターとの交流の行い、利用者が刺激を持てるような工夫や、利用者がこれまで築かれてきた関係性の継続に配慮している。運営推進会議や、ホーム便りなどを届けるなどしながら、協力者を得れるような関係づくりに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな農家風のホーム。外観は一般の民家で、室内も杉を使った腰板を張り巡らした壁と、高い天井は杉材の骨組みが見渡せる造りになっている。「ここが私の最後の棲家」「ここが死に場所かな〜」そんな会話が、入居者の笑顔と共にある静かで穏やかなホーム。職員は「意思の疎通ができることが一番の喜び。今、何がしたいか・して欲しいか・・・入居者の想いに寄り添い、思いを掴むことが介護の基本」と語る。職員の人事は法人全体で考えられ、特養からの異動もあり、其々事業体が異なると、見方・捉え方も異なるが「基本は利用者の喜びを知り、満足の提供に最善を尽くす事」としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を基に、常に情報の共有に努め、理念の実践に繋げている。	法人全体の基本理念は「いたわりとやさしさ」。住み慣れた地域の中で、在宅生活の延長線上にあり「自分らしさ」を支える機能を持つ事業所として、24時間・365日切れ目ない支援を、理念の心を大切にして提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域サロンへの参加がなかなか出来なかった状況があるが、運営推進会議に参加する委員を通じて、地域との情報共有に努めている。	毎月発行されるグループホーム便り「あやすぎの里」では、ホームの様子だけでなく、やはた保育園児との餅つき・芋掘り交流、舞踊グループや子育て支援センターの子どもと保護者、小学校のボランティアリーダーとの交流など、周辺地域住民との交流の様子を写真で紹介している。また、運営推進会議委員の協力で、七夕・クリスマス交流も実施され、利用者の大きな喜びとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議による、情報の共有と伝達。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時に情報共有や情報収集に努め、相談に応じたり、行事の開催に繋げている。	運営推進会議では山鹿市が開催する介護フォーラム等の案内を行い、介護に関する興味と知識の高揚に努めており、講習会に参加する家族もあって、ホームに対する認識も強くなり、サービス向上への意見として活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加をして頂き、情報共有や依頼等があれば可能な限り参加し協力を行っている。また、関係機関へ月毎の便りのできる限り直接届け活動状況を伝える努力を行っている。	ホームを利用者の家と考える管理者は「市政便り」はホームに届いていないため自宅から持参する対応がとられており、市町村情報の入手に努力されている。回覧板は、地区の所帯として加わっていない為、届いていないので、今後の取り組みとして地域との関わり方を検討されている。尚、前年度の評価で、毎月のホーム便りを市の担当者へ届けることを改善点として挙げていたが、今年度は、状況報告と共に届けられる事が実施されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを前提とし、状況に応じてスタッフ間、また家族とも相談検討を行い、実践に繋げている。	日中は玄関の施錠はなく、出入りを知らせるチャイムも切られている。それは、音に敏感に反応する利用者へ配慮で、よけいな音や制限をせずとも危険なく行動が把握できる対応への強化に繋がっている。各居室には洗面台とトイレが配置され、自由な利用が行なわれているが、転倒が懸念される人にはベッドの下にセンサーを利用し、それぞれに異なる行動に合わせた置き位置の工夫がみられた。なお、職員には福祉用具を取り扱う専門家があり、車椅子が必要になった人には馴染むまで試して貰い、最良と思われるものを選んだり、行動の動線を予知することで、拘束是正に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	参考資料を用いてミーティングの際に意識の統一を図り、日常の中でも、お互いに声掛け合い常に意識しながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加をし、参加ができなかったスタッフへの伝達講習、学ぶ機会づくりに努め、又、運営推進会議の中でも、法人内での研修会開催について市職員へ相談するなど関係者との連携にも努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書などを用い、しっかりと理解を得られるような説明に努め、必要時または、質問を受けた際には、時間を設け再度説明を行うなど同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族、近隣住民、関係者などから要望が出た際には、すぐにスタッフ間での検討を行い、可能な限り運営に反映している。また、検討結果はその旨家族などへも報告し理解を得られるように努めている。	毎回、運営推進会議には家族が持ち回りで参加し、ほぼ全家族が出席。会議では、面会・訪問時の感想や意見を出しており、職員は対応策を考え支援に繋げている。また、クリスマスツリーのイルミネーションへ過剰反応があったり、夜間に非常用の赤い照明を燃えていると勘違いする人がいるなど、事例毎に職員で話し合い、飾りの置き場を考えたり、照明にカバーを付けるなど、運営に反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、業務の中やミーティングなどを通じ意見などが出た際にはしっかりと話の聞き取りに努めている。また、代表者へは管理者を通じて意見を伝え、可能な限り意見が反映されるように努めている。	職員は介護中に邪魔になったり、利用者が気にするなど、距離感を感じることから、現在名札を使用していない。しかし、職員を「兄さん」など呼ぶ利用者もおり、改善策として、顔写真の下に名前を表示する一覧表を掲示することを検討中。また、法人内での他事業所への移動には、職員・管理者の意見に耳を傾け、要望への検討も行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限りの要望を反映できるような職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの個性を活かせる様な役割分担を行い、研修参加やミーティング等での発表の場を作るなどし、各スタッフの能力向上の機会づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加の機会を持ち、要望があれば希望の研修会への参加も実施出来るように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や関係者からの聞き取りを行い、資料を用いながら、スタッフが利用者の状況をしっかりと理解し、情報を踏まえてその方と関わり、信頼しあえる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り多くの情報を得られる様に、しっかりと時間をかけ、利用者や家族などからの聞き取りをし、入居後も生活の中でまた、面会の際なども、報告相談を行い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況把握に努め、入居後も安心して生活出来る様、必要なサービスの導入がスムーズに行えるよう関係者・関係機関との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力をスタッフ間で情報を共有・理解し、本人が自信を持って生活を送れるような援助の工夫を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も積極的に関わられる様な機会づくり・環境作りに努めている。遠方に住む家族に対しても、連絡を取りながら帰省の際に運営推進会議に参加をお願いするなど、関わりを持てる努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もこれまで関わられてきた方々との関係が維持できるような支援を行い、また、面会にも来やすいような雰囲気づくりに努めている。	利用者には毎月帰宅する人もいるが、身近な人も減り、帰宅できない人も居る現状。隣接する特養ヘディサービスへ通う人の立ち寄りや、福祉センターでの踊り練習後に、立ち寄って貰う人などを大切に交流を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での関係性をしっかりと理解し、スタッフを通じながら、また、利用者同士がお互いに支え合えるような機会づくりを行いスタッフが関係構築の妨げにならないように注意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も管理者が時折家族へ連絡をし現状の聞き取りを行ったり、担当ケアマネージャーから聞き取りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にゆっくりと話をし、想いしっかりと聞き取れるようにし、様々な活動を通じ、話をする中から、本人の興味や想いを引き出せるようにしている。	デイルームで寛ぐ利用者は、ゆっくりのんびりした様子。食事用の大テーブルが2台置かれており、利用者の相性や食事のスピード等に配慮した座席となっている。テーブルには透明なビニールシートが張られており、その間に孫さんからの手紙や挿絵が、いつでも見られるように挟み込まれてるなど、家族との想いを大切に支援する対応がみられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、前担当ケアマネージャー、知人から、可能な限り聞き取りをし、情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネージャーを中心にアセスメントを行い、現状の把握、状態の共有に努め、日常のケアに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で得たニーズ、課題をスタッフ間でのカンファレンスや、本人・家族との話し合い、時には知人や、運営推進会議でのアドバイスを受けて、ケアプランを作成し、より良きケアの提供に繋げている。	9人の介護は一人ではできない・・・チームで情報の共有化を図りながら対応することが肝心と、スタッフ間での話し合いを常時持ち、ミーティング後に集中して個別介護を検討。管理日誌・業務連絡欄に質問を記載し、アドバイスを貰う等、カンファレンスが有効に活用されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の暮らしや現状の課題が分かりやすく記録し、確実な情報の共有につなげられるような記録に努めている。また、必要時には検討をし、記録様式の変更、記入方法の改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉協議会に相談し、開催行事に参加をしたり、地域の核となる方々との連携を取りながら、柔軟にサービスの提供が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域の子育て支援センターとも連絡を取り合い交流会をするなど、楽しみを増やせる様な機会づくりを行った。機会があれば、地域サロンへの参加も行っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を最大限尊重しながら、入居後のかかりつけ医を決めている。かかりつけ医が入居により変更する場合には、安心して医療を継続し受けることが出来るような情報の伝達・共有を行っている。	入居者の以前からの掛かり付け医や家族の希望に沿った対応とし、通院は基本職員が行い、必要に応じて家族が付き添って、病状を把握し、毎日の生活支援に役立っている。また、休日・夜間の医療対応を考え、地域の病院のみならず、広域な範囲での協力体制を築いており、緊急時対応も考慮されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化がある場合には、すぐに主治医に相談・対応を行い、本人や家族の安心につなげられる様に支援している。また、利用者の状態に応じ、訪問診療・訪問看護を利用する等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も面会や家族、病院への連絡を行いながら本人のストレスの軽減に努め、しっかりと情報共有しながら早い退院へ結びつけられる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族との話し合いを持ち、訪問診療などの支援も受けながら、可能な限りホームでの生活が出来るように支援している。しかし、出来る支援にも限界がある為、家族へもその状況をしっかりと伝え、理解を得ながら必要性があれば入院を勧めたり、併設施設とも連携を持ち、スムーズに特養入居が出来るように努めている。	現在のホームにおける医療・看護の体制では、重篤になった際の対応は難しく、緊急搬送を行なった事例もあり、隣接する母体老人ホームからの応援と、協力医の往診で対応している。また、常日頃から家族との連携を図り、身体状況の共有化を図り、一日でも長く平穏な日を過ごして貰うための支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医から助言をおおぎながら、必要に応じ緊急時の対応についてスタッフ間で話し合いを持ち、実践できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等を行い、併設施設が訓練を実施する際には可能な限り参加している。また、運営推進会議での伝達及び、緊急連絡網に近隣住民の連絡先を入れ、緊急時に協力を得られるように努めている。	ホームは急な坂道に接しており、隣接する特養からの出火等を想定し、坂道を下りる練習等も必要になるかもしれない等、あらゆる状況を考えた災害対策が必要と思われる。現在、地元の防災訓練に参加。消防団や警察との連携を図っており、玄関のプランターは夜間や災害時に掛まつれる要因になるので排除したら・・・とか、玄関に車椅子を配備したら・・・など、現状を確認した上での助言があるなど、緊急時対策は地域を挙げての支援が得られるよう努力されている。	現在、料理や清掃などで係わりを持つ事業所や家族からも緊急時の支援に対する協力依頼を考慮中ということだが、避難訓練実施の際、協力依頼を行い、一回でも多い体験を実施されると良いと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアにおいて、スタッフ間で助言しながら、より良い対応について、ミーティング等での話し合いを持ち、資質向上に繋げている。	入居者に寝たきりの人はおらず、部屋にはトイレと洗面所が設置され、排泄は気兼ねなくゆっくり出来、食後の歯磨き・うがいも他の人と洗面所がダブルことなく対応できている。介護の在り方も、利用者に媚びることなく、冷たくもなく、大人対大人の対応がみられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に努め、想いをしっかりと引き出せる様に努めている。スタッフ間でも情報の共有を密に行い、より良い関係性の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴に限っては、時間を決め提供している。しかし、利用者の状況に応じて臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	趣味・趣向を大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の気持ちが向くような配慮に努めながら、声かけ、必要な支援を行っている。	食事は大きなテーブル2台に分かれて行われるが、各テーブルに職員も加わり、食事の出来栄や、次、何が食べたいかなど、会話が弾んでいた。また、裏庭の菜園で入居者と職員がじゃがいもや菜物等の収穫を行い、調理に使っており、更に、山鹿市内の大型スーパーまで買い物に出掛けるなど、食べるだけでない喜びを共有している。ご飯もいいけど、サンドイッチやトーストなどパン食もしたい・・・とか、おやつ作りをしたい・・・という入所者の要望にも応える支援がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が立てた献立を基に季節感を感じれるような料理を調理し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士の指導の機会を設け、本人の口腔内の状況の把握、適したケアの実施、口腔体操などをおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に合わせて迅速に検討を行い、本人の思いをくみ取りながら、環境作り・配慮に努めている。	居室にはトイレが設置されているが、必要な人にはベットサイトにポータブルトイレが準備されている。福祉用具の専門知識を持つ職員が利用者の体型や利き腕などから判断し、ポータブルの高さ・向き・肘掛けの位置などを工夫。排泄の自立支援に大きく役立たせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分がしっかりと確保できるような食事の工夫を行い、主治医や栄養士とも相談をしながら、気持ちが良い排泄に繋がられる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は13:00～16:00の間で提供。本人の気持ちや希望にあわせ状況を見ながら提供している。	浴槽は大き目で二人がゆっくり入れるサイズ。一人では浮いてしまうこともあり、職員の見配り・介助が必要。仲良し二人での入浴もある一方、服を脱ぐのを嫌がる入居者もあり、菖蒲湯やゆず湯など、楽しく入浴できる対応が工夫されている。	山鹿は温泉の街。時には温泉に出掛けて楽しむなどの企画も良いと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境作り、空調の調整などしながら安眠が得られるように配慮している。どうしても睡眠に満足が得られないようなときには、主治医と相談をしながら、適切な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用する薬について、スタッフがきちんと把握し、処方の変更があったときには、主治医や薬剤師より十分に注意事項の聞き取りを行い、文書及び、口頭による申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの趣味・趣向の聞き取りに努め、入居後も継続して行えるような支援を行っている。又、新しい楽しみ事を見つけ出せるような配慮にも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力を得られる方においては、相談をしながら、外出・外泊の機会が持てるようにしている。また、時折、買い物やバスハイクが行えるような行事の企画も行っている。	4月にはお花見が行われるが、家族と運営推進会議の委員さんにも声掛けし、大勢で楽しむ状況を作っている。菖蒲見学・ショッピングセンターへの買い物など、家族との触れ合いや外出の機会を多く作って、家族の絆を強める機会としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の理解がある方については、家族の方に確認をして頂きながら、本人で管理している方もおられる。その方の理解度に応じ、事務所で預かったり、家族に管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用については、制限をしていない。希望時に必要な対応をしている。手紙は、届いた際に返事を書かないかと勧めるなど、機会を設け、希望時には代筆する等必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやホーム内に季節の花を置いたり、テラスに鼻を植えるなど季節を感じれる配慮をしている。また、不快さや混乱を招くような状況が見られるときには、迅速に対応し、改善を行っている。	箱庭の緑をガラス越しに眺めながら、食卓に座ったり、ソファに腰を下ろしてテレビを楽しんだり、中央の一段高くなった和室の畳みに座ってみたり、思い思いの時間が過ごせる共用空間。天井が高く、廊下から続く屋外の木製犬走りにも自由に出入できるように、鍵もかけられておらず、心地よい共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にテーブルやいすを配置し、リビングと居室の中間となる空間づくりにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談をし配置しながら、安心して過ごさるような配慮を行っている。	各居室には洗面台とトイレが配置され、いつでもゆっくり自由に使える。職員に介護機器を扱う専門家がおり、利用者の身体機能を考慮した導線でベッドの配置を変えるなど、使いやすさを第一に配慮されている。また、タンスの上に亡夫の位牌を置き、毎朝水をあげるなど、入居者の生活感を大切にされた支援もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	資格になる部分の整理や危険物の除去、トイレや目印になる物の設置など安全に配慮しつつ、温かみのある環境作りに努めている。		